

第2185回例会 「地域の皆さんに支えられ、共に歩む学校を目ざして」



上田煌桜学園 さくら国際高等学校
理事長 荒井 裕司様

①20周年を迎えたさくら国際高校

昨年さくら国際高校は20周年を迎えました。開校当時、長野県も上田の地域も不登校の子どもたちが多く、教育特区立の高校としてのスタートでした。どんな子どもたちが来るのか、地域の皆さまは心配だったと思います。子どもたちは真面目で素直で純粋な子どもたちばかりで安心していただきました。地域の皆さんには、「子育てネットワーク」という団体や、様々な専門的な知恵を持たれた方々が応援してくださったり、青年団や商工会、NPO法人などの皆様のお力を借り、学びのフィールドが広がりました。その頃、経済界の人たちの支援で「さくら奨学金制度」も生まれました。



② さくら国際の活動

- (1) 舌食池の植栽と整備、水抜きと清掃。
- (2) 岳の織りの雨乞い行事への参加。
- (3) 神社のお祭りへの参加。餅つき、焼き鳥、わたあめ、金魚すくい、野菜の販売、圧巻は神輿担ぎで、若い生徒たちが山道を担ぎ続けました。
- (4) 地元の小学生たちと協働の「すぐりジャム作り」と「天然の醤油作り」近くの畑を借りて作るジャムは美味しいと評判です。
- (5) その他「稲作」や「老人ホームへの慰問」などがありますが、最近は「上田のわっしょい」に参加させていただき、3年連続で「わっしょい賞」をいただいています。



③ 地域の皆さんの思い

学校の近くの「とっこ館」の雑誌の中に、地域の皆さんのさくら国際高校への感想が掲載されているのが、つい先日見つけました。その中に「地域と一体となって様々な活動をしてくれて、私たちにとって理想的な学校になってくれている」と書いてあり、教職員は胸をなでおろし、嬉しく思いました。

(1) 北京の日本大使館で聞いたこと

ある教育団体に訪問した北京の日本大使館で文科省から出向していた大使館員の言葉に、調査に行った職員が口々に、「さくら国際高校は、地域と一体となった活動をしている数少ない学校です」また「地域の皆さんの協力が理想的です」とお話をいただきました。

(2) 国際交流活動について

さくら国際では国際交流も盛んで、アメリカやカナダへの留学や台湾の姉妹校との交流が行われます。しかし、最も長いのは30年にわたる「ラオスの小学校建設活動」です。現在、9校目の小学校を建設中。子どもたちは、地元でホームステイを経験したりして、「生きる知恵」を学んで帰ってきます。

この素晴らしい国のラオスを「もっと日本に紹介しよう」とラオスフェスティバルを代々木公園で行い、今年は14回目となり、皇室から「愛子様」にもおいでいただきました。



さくら国際高校はこれからも「地域の皆さまと一体になり、共に歩む学校」を目指して精進して参ります。どうぞ、よろしく願いいたします。

